令和２年７月 29 日

保護者のみなさまへ

茨木市立葦原小学校

校長　井上　智弘

子どもたちの非認知能力の育成について

茨木市教育委員会では、令和２～６年度にかけて実施する「茨木っ子プラン　ネクスト 5.0」で、本市の子どもたちに「非認知能力」を育成することを重点としています。非認知能力とは、やり抜く力や自制心、コミュニケーション力など、学力テストで測ることのできない力のことで、幼少期からの教育で身に付けることが、学校教育の時期だけではなく、大人になってからも、社会でよりよく生活していく上で、とても大切なものといわれています。

非認知能力は、幼児期・学童期・青年期のそれぞれの時期で身に付けていくものではありますが、特に、幼少期からの継続的な教育が重要であるといわれています。また、保育所・幼稚園・学校はもとより、家庭をはじめ、放課後や地域活動など、様々な場面を通して育まれるものといわれています。

非認知能力を育てるためには、子ども自身が自分の行為を振り返ること（メタ認知）、周りの大人が子どもの姿に対して声をかけやメッセージを伝えること（価値づけ）が非常に有効だといわれています。

本カードには、メタ認知を行うための「子ども記入欄」と、価値づけを行うための「大人記入欄」を作っています。みなさまには、「大人記入欄」に子どもたちの姿を見た感想や子どもたちへのメッセージを書いていただければと思います。

子どもたちを育むことに携わっていただいているみなさまへ

茨木市の子どもたちに非認知能力を育てる取組にご協力ください

茨木市教育委員会

非認知能力とは

非認知能力とは、やり抜く力や自制心、コミュニケーション力など、学力テストで測ることのできない力のことで、幼少期からの教育で非認知能力を身に付けることが、学校教育の時期だけではなく、大人になってからも、社会でよりよく生活していく上で、とても大切なものといわれています。

茨木市教育委員会が令和２～６年度にかけて実施する「茨木っ子プラン　ネクスト 5.0」では、本市の子どもたちに「非認知能力」を育成することを重点としています。

非認知能力は、幼児期・学童期・青年期のそれぞれの時期で身に付けていくものではありますが、特に、幼少期からの継続的な教育が重要であるといわれています。また、保育所・幼稚園・学校はもとより、家庭をはじめ、放課後や地域活動など、様々な場面を通して育まれるものといわれています。

みなさまへのお願い（保護者、先生、子どもを育むことに携わっていただいている方々へ）

非認知能力を育てるためには、子ども自身が自分の行為を振り返ること（メタ認知）、周りの大人が子どもの姿に対して声をかけやメッセージを伝えること（価値づけ）が非常に有効だといわれています。

本カードには、メタ認知を行うための「子ども記入欄」と、価値づけを行うための「大人記入欄」を作っています。みなさまには、「大人記入欄」に子どもたちの姿を見た感想や子どもたちへのメッセージを書いていただければと思います。

茨木市で子どもたちに育てたい非認知能力

本市では、保育所・幼稚園・小学校・中学校の教職員と協議を重ね、これからの社会の中で子どもたちが自分らしく生きていくために必要な力を「茨木っ子力（本市の子どもたちに育みたい非認知能力）」としてまとめました。感想やメッセージを書いていただく際の参考にしてください。

	ゆめ力	自分力	つながり力	学び力
定義	**未来に向かって、努力できる力**	**自分と向き合い、高める力**	**他者を思いやり、つながる力**	**興味関心を広げ、意欲的に学ぶ力**
目指す姿	夢や目標をもつことができる（目標設定）	自分のことを肯定的にとらえることができる（自尊心・自己有用感）	他者と協力して、取り組むことができる（協力）	様々なことに興味・関心を持つことができる（興味・関心）
目指す姿	夢や目標に向けて挑戦することができる（チャレンジ）	自分の感情をコントロールすることができる（自己抑制）	他者の意見や考えを受け入れることができる（リスペクト）	疑問や不思議に感じたことを解決するために、行動することができる（課題解決）
目指す姿	あきらめず最後まで取り組むことができる（継続・レジリエンス）	自分の考えや判断に自信を持つことができる（自信）	自分の考えや気持ちを他者に伝えることができる（コミュニケーション）	学びや経験を新しい考えや行動につなげることができる（振り返り力）

これからの時代に必要不可欠な「茨木っ子力」

岡山大学　中山 芳一

私たちは、古くからテストで数値化できる力（認知能力）だけでなく、非認知能力が大切であることは感じ取っていた。だから、これまでも家庭や幼稚園・保育所、学校、地域などで大人は子どもにそのことを伝えてきたはずである。

しかしながら、いつしか非認知能力は、ぼんやりとした感覚的なものとなってしまい、はっきりとしたテストの点数の方が重視されるようになってしまった。ところが、時代は超加速度的に変化し、必ず見つかる正解ではなく、修正しながら見出していく最適解こそが求められ始めている。現在の新型コロナ問題は、まさにこのことを象徴しているかのようである。

それでは、修正しながら最適解を見出していくためには、何が必要なのだろうか？「茨木っ子力」が掲げるように、未来へ向かって努力を惜しまず、自分と向き合いながら自分を高め続け、他者への思いやりを持って他者とつながり、興味関心を広げながら意欲的に学んでいかなければ、修正することも最適解を見出していくことも不可能だといえるだろう。（中略）

振り返りを繰り返すことで、その時々に自分で自分のことを見つめられる「メタ認知」も可能となる。子どもがメタ認知できるようになれば、オンタイムで自らの行動や周囲の状況を把握し、状況に応じて行動を調整できるようになるだろう。つまり、メタ認知できれば、自分で自分の「茨木っ子力」を意識的に伸ばすだけでなく、これからの力を状況に応じて使いこなせるようになる。

だからこそ、まずは「振り返り」と「見通しを持つ」ためのツールとして、『茨木っ子キャリアパスポート』を活用したいものである。

茨木っ子キャリアパスポート（家庭・地域版カード）

小学校　　年　　組　　名前

タイトル		
日時		年　　月　　日（　　）
子ども記入欄（こどもが かくところ）	やったことや思い出を絵や文字でかきましょう	
	そのときの きもちを ふりかえりましょう	そのときの きもちを 下からえらんで ○をつけてみましょう（いくつでもいいですよ） きもちの りゆう
大人記入欄	子どもの姿を見た感想、子どもたちへのメッセージを書いてください	